

六月二日の大雨について

豊小・4 大澤 光

豊川市では、六月二日に記録的な大雨がふりました。

その前の日から、ニュースでは雨がふる予ほうが出ていたので、不安な気持ちがありました。でも少しだけ、台風のように休校になるかなと思っていました。でも、その日は休校にならなくて、帰る時間も、雨はそんなにふっていませんでした。夕方から、だんだんと雨が強くなり、家の屋根やかべに雨が打ちつける音が大きくてとてもこわかったです。ベランダから外を見ると、広い道路が川のようになっているのが見え、ニュースでも、ぼくが通ったことのある道がかん水して、車がしずんでいる所がうつておどろきました。その時に起こったことは、ニュースでしか見ていないので、インターネットを使つてくわしく調べることにしました。

まず、どれくらい雨の量がふったか、調べてみました。気しゅうちょうのホームページで調べることができました。

一日にふった雨の量は、日こう水量といい、ミリメートルで表します。豊川市の記録はないので、となりの豊橋市の記録で調べました。

六月二日の日こう水量は、四百十八ミリメートルで観そくし上第一位でした。一か月のこう水量を見てみると、一位五百四十五・五く十位三百四十五ミリメートルなので、ふだんの一か月の雨が一日にふってしまったことがわかりました。

次に、雨の強さを調べます。雨の強さは、一時間にふった雨の量で表します。

六月二日の一日最大一時間こう水量は、四十五・五ミリメートルで観そくし上六位でした。

また、その日に一時間あたりでふった雨の量を調べてみると、午後三時から午前0時まで十ミリメートルをこえる雨がふっていました。

雨の強さを何ミリメートルと言われても、よくわからないので、それもどういふことか調べてみることにしました。

「十三ミリメートルく二十ミリメートル：やや強い雨、ザーザーふる、雨の音で話し声がよく聞き取れない。」「二十ミリメートルく三十ミリメートル：強い雨、土しやぶり、かさをさしてもぬれる。」「三十ミリメートルく五十ミリメートル：はげしい雨、バケツをひっくり返したようにふる、道路が川のようになる。」という強さのちがいがあるそうです。これを見ると、六月二日は強い雨、はげしい雨が長い時間、ふり続けたことがわかりました。

次に調べたのは、線じょうこう水帯です。ですが、知らない言葉でした。この日のニュースでは、必ず出てきます。

愛知県のホームページでは、次のように書いてありました。

「愛知県では六月一日から雨がふり始め、特に二日夕方夜にかけては、線じょうこう水帯が発生するなど同じ場所ではげしい雨や非常にはげしい雨がふり続き記録的な大雨となった。」

線じょうこう水帯とは、積らん雲が次々に発生して、それらがほぼ同じ場所を通過したり、ていたいしたりすることによってできる雨のはんいのことです。雨のはんいのはばは、二十キロメートルく

五十キロメートルで、長さは五十キロメートル〜三百キロメートルです。台風とちがつて、予そくすることがとてもむずかしいと書いてありました。

今回の大雨では、きん急速ほうメールがスマホにはい信されました。

ぼくの家でも家中のスマホが聞いたことがない音で鳴りひびき、家族のみんながとてもおどろいてあわてたことを覚えています。内容を見ると、

「豊川や豊川放水路ではんらんのおそれ」と書いてあり、とても不安になりました。

ぼくの家は高いところがあるので、ひ害はありませんでしたが、家の周りにはかん水しているところがあり、とてもこわいなと思いました。ふだんから、心のじゅんびをしておかないといけないと思いました。

そこで、家族でハザードマップを見て、きけんな所やひなん場所のかくにんをしました。いろいろな数字を調べてみて、本当にすごい量の雨で、こわい雨だったんだと思いました。そして、こんなことは、もう二度とないと思うけれど、六月二日の後も、九州や東北でも線じょう水帯が発生し、同じような大雨がふつたことがニュースになっています。豊川市でもまたふるかもしれません。

これからは、自分でもニュースの予ほうを気にしたり、雨の日は外に出ないようにしたり、きけんな所には近づかないようにしたりするなど、気をつけなければいけないと思いました。